

西洋道中膝栗毛

十編
上

10

15

20

25

30

A750
19

Bancopu yampi
萬國航海

西洋道中

膝栗毛拾編

萬笈閣梓

一蕙齋芳幾狂筆

假名垣魯文戲著



古ヨリ戲作者ナルモノ有テ妄語
中ノ妄説ヲ編出シ贅書中ノ
贅冊ヲ上梓ス寸モ其世ニ効ナキ
而已ナラズ随テ童蒙ヲ欺クニ至ル
斯ク文明ノ世ニ至ルト雖モ未タ其類少
カラズ豈歎カザル可シ哉獨リ我カ友

48-3781

魯子此時ニ當リテ一朝五大洲ヲ
夢遊シ所謂世界ノ名山大川各
國ノ風土氣候及ヒ其怪奇觀壯
覽ト稱スルモノ記シテ數篇トナス其趣
其文戲書ニ属スト雖モ童蒙婦女
ヲシテ畧其地名事情ヲ知ラシメ際

ヲ其方位里程ヲ知ラシム是レ世
間ノ妄說寓言ノ書ト今日ノ論ニア
ラズ少レク世ニ效アルニ近アリテ彼ノ
一九七準ノ戲書ニ優ルイ遠シ始テ
知ル魯子ハ魯子ニアラザルヲ請フ此
編ヲ閱スルモノ世間ノ合卷ト稱スル

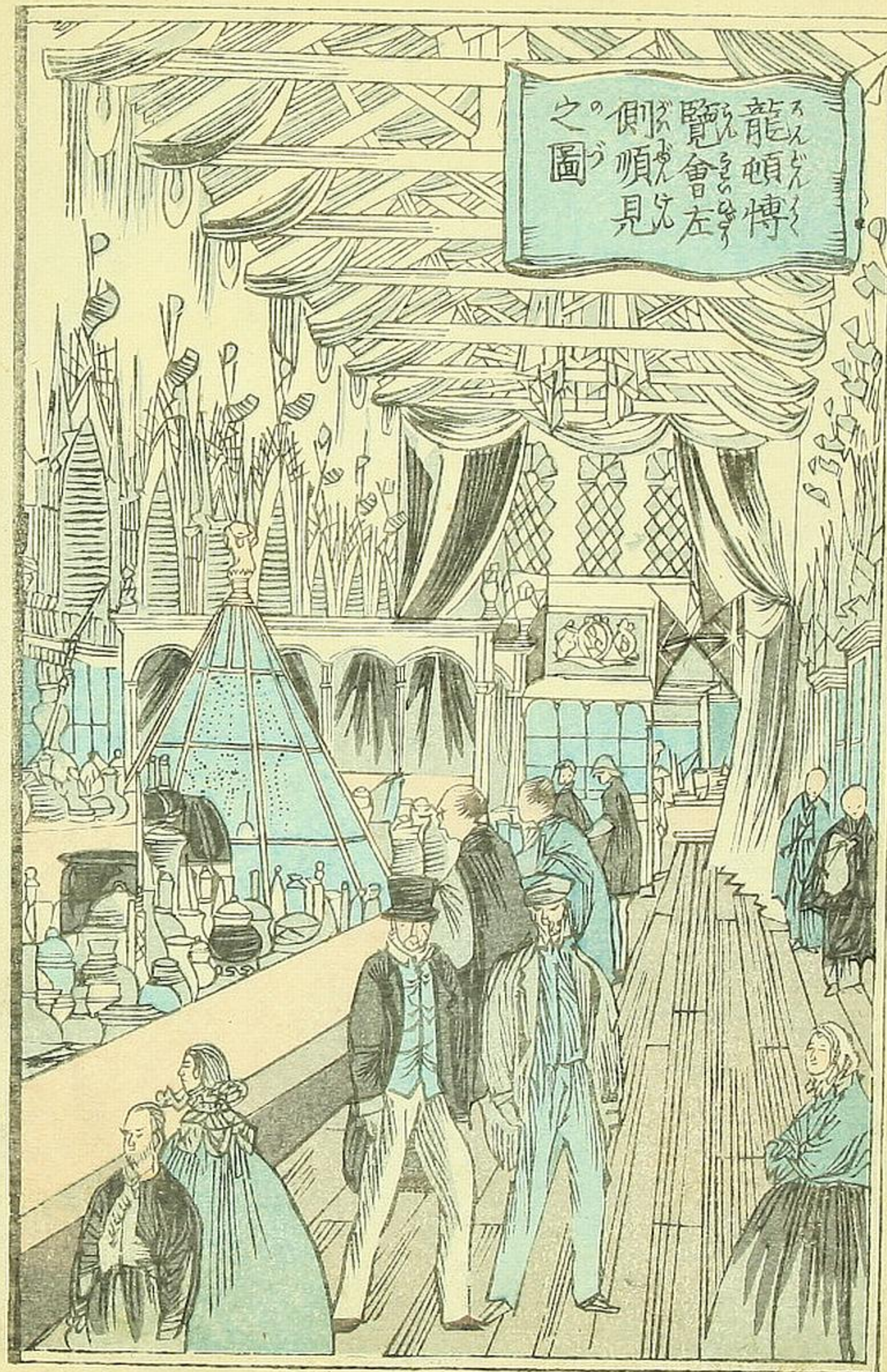
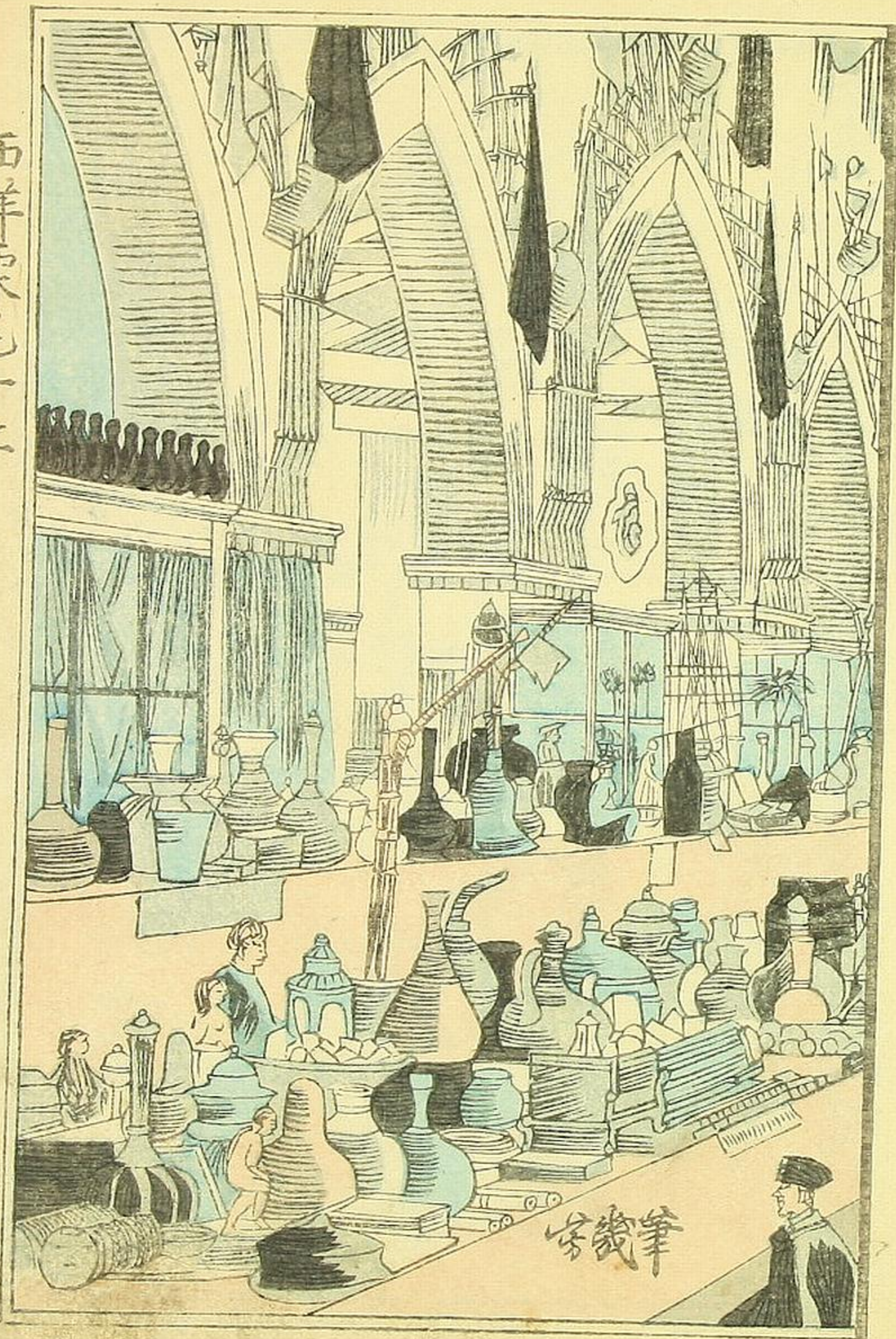
寓説ノ編ト同視スルナクシバ閱セ

ダルニ勝ラン歟

于時幸未仲殊

友人星一序





古登婦祢者千風念百
 船津奈毛怒茂美都保
 廼久仁々那已加世藻
 南之

紀魯



顯橫灣港泊船艦

從名古屋之書帖

當此名古屋之書帖
 今之稱書者乃以
 書之體之相之相
 未夕而夕之夕之
 然夕夕夕夕夕夕
 此夕夕夕夕夕夕
 夕夕夕夕夕夕

西華集卷之十一
 唐詩

未十月中旬方

古袖号中村座公方



三原中村座

前書

菅原傳家書鑑 大序より

切在言

弥三郎 在多人 西澤藤栗七上下



てんち云吉 歌村 仙兒松

とち云吉 市川九藏

三味せん 新本 翁太夫

在言作者 松崎新花

吉人 移丸 助 豊屋 富

在言 並木 五郎市

三味せん 新本 翁太夫

在言 附 西山 三郎

三果せん 吉田 小三治

附 附 来石 門

千鶴 菊 大寺 可吉日

頭 取 沢村 紀之助

西洋膝栗毛茅拾編後序

當編也世界第一滑稽稗史の駿足し。一鞭千里の大評判内地の看官勿論横濱築地小在留の外客競ひて購ひ求めず暇も学ひ讀まざるは。既ニ當時尾州名古屋古袖町の戲場小於。是を脚色て人氣を引く。此膝栗毛の驥尾小附す。目的の當利を覘ふが為あり。かきむ魯文先生の雷名交際の名

國小惠さつ。目今佛國の馬曲師スリエある。個曲馬興行の告條及び自己の傳記。旅中の紀行かんがの倭解を乞へるも。又膝栗毛の餘澤はして所謂馬馬連の因縁ゆやあらん。下麼先生の編を成や。謗ふ云づつけ書め。再稿を省は。是をん許すの著述に追々。華觀繁雜止を得ぬ。杜撰廣漏も少く。神。頭才華力江湖上の

流行上下の事情を穿つに至りて。稗官
 者流の二葉小下。實小戯作者の巨擘
 と稱ゆ。此物の伯樂とあり。小栗が
 馬を讃譽し格あり。序者の後馬は衆地の
 一言。曷采々々と嘆稱ふらん

那夢傳盲屋老人題

和漢西語
 夷事新聞

西洋道中膝栗毛拾編上

東京 假名垣魯文戯著

文明窓の花屋。東海小庵。西洋の道潜むる
 を案内の記。龍溪書の禁りより。珉江入楚の原書を
 披ひて。畢ふ今日の僥倖を得る小栗の好機含
 葉。龍天窓が月代の小栗も。無葉がエビスを書きあ
 旦小道とほいて。夕小栗も。可なりといふ。儒の本
 文小栗の灯の折。小栗も。姓名をある小栗も。小栗も。小栗も。

あたまふあふのい遅いと。引込思案が周備姑息と十
振袖に十指回素統二十筆六十。遅速を輪ひきど学
ぶが専一倫緒よやまの痛瘡知らせよ一せはつら
あふだも麻痺でんと禽歎扱ひけこつりをひき
た風あふれまふらむうさふ何ともは父とお前の便
宜。脱海さふたうらう。弥江郡北八二人りの若いカ
イロの獄中をむきこふる車より痛く痛くおた
わぬ。その夜海泊舎小枕をむき。うさうあふれ
お

あふが。次の日もいさふさふらむ。教目をほし
あふ。博覧余の機念ふをく。脱海先ふさふれば
魚園中をいさ。治瘡をふ。一時も痛く金快きせん
あふ。度緒が指搦ふより通次郎ハ緒者の主人を
たのむ。田地の病院ハ兩個を譽ふ。うちふせつ、
送りけむ。由をいさ。一間を借受通ぬ。上等の
医の診察をもえんと被ふ。小枕居けり

○作者曰歐羅巴諸國の病院ハ痛若入院の規則

及び隙時の事とのい西洋事情その余の読

書小巨細をもて愛小賢せよと彼書冊を讀て

後い戯編を一覽しめり佳良小入條多うに

○沛沛那多八のあつて病院中小仕切る下ろの條をみてもとを並べ

を通し那と大東家のやういひ高きといふ青二才とよむはせんまうやま

を七八分たさるる者のあつてやういひなまひとあつてとあつてとあつて

異人のいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

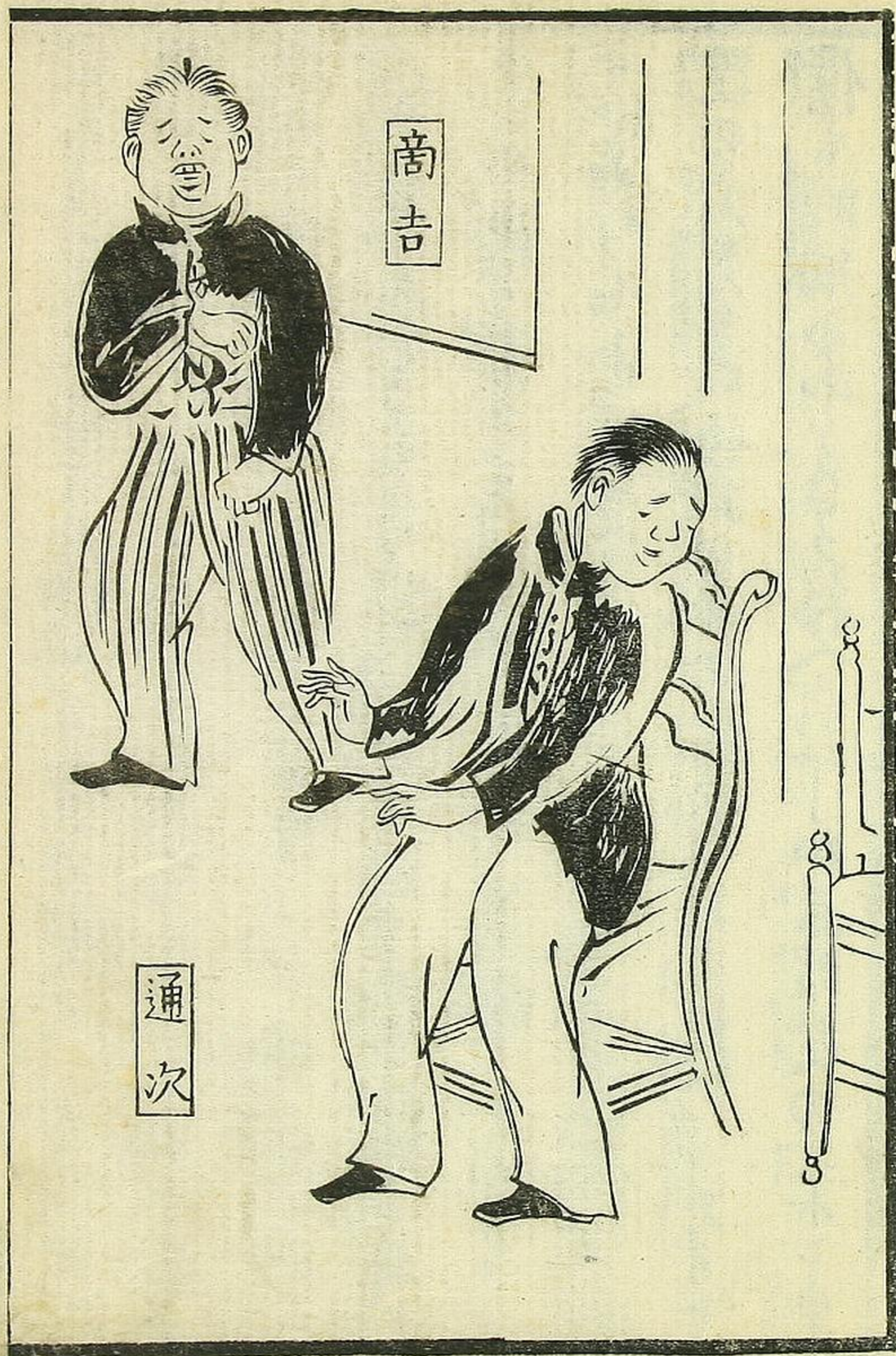
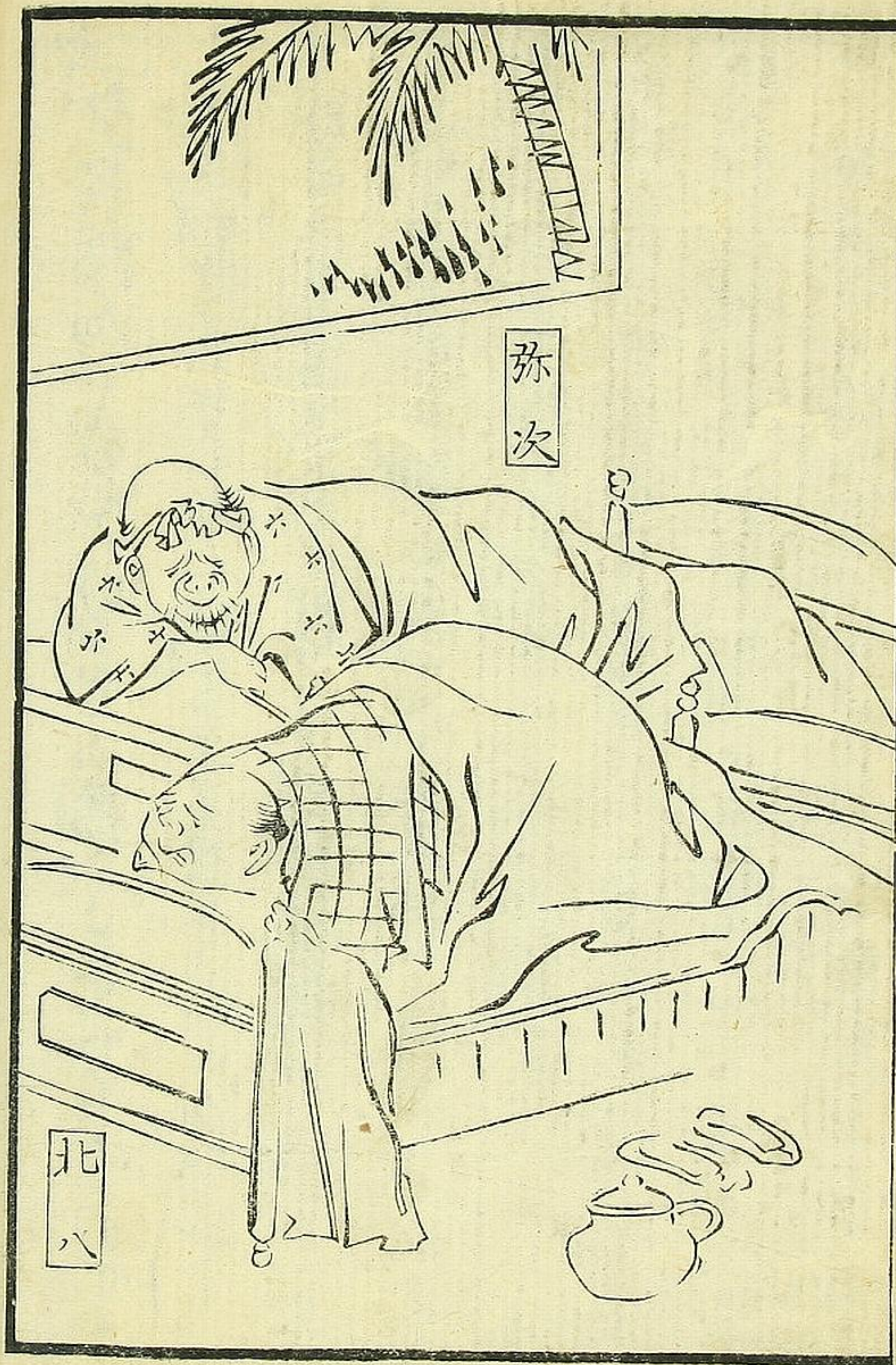
いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの

いひのいひをきくつていひのいひをきくつていひのいひをきくつていひの



だらうけと知れぬ他國のあつたぬとせ^北「そらお前
 故なりやうが」^通「しらたふてアイヤ」^北「あんど
 ねんやうが」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 人參果はあるをとりつて^通「北さんの片糖の初編
 うらの通う若であつて」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 十字だらうかつてとてゐるがういサ^北「エモシ」^通「あんど」^北
 院の大先生は^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 僕も^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北

生の一妻^北「あんど」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 んあら^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 クトルの^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 北^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 せう^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 せ^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 牙子^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北
 の^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北「あんど」^通「あんど」^北

ちがひびやうこぬ ねて「シヤボ」の通に那がさん切あゝま洋
 やうふまんせうあり 彼をまゝとひたるをちやうとやうて ケン・ユー・スピーキ・トウ
 〇四ウ あんぢのいふやうにせよとあやう 通「エ・リットル」といふことあり 「エ・ン
 スル・〇・コー」せよといふこと 通「まゝ」のシヤボ「ハ通」に那と英語とて
 あやうく應接して此の病者の方へゆく係に人の目は
 連中 おあやうとせよから後御ケ合だ子通さん彼奴が
 かんといやうた子 通「何」サ君のいねをながらせど
 ろが解からたの〜こゝのいねけかうやくとを張つたり

水菜と葱なら一日二日の内中ア愈がゆさん
 のいぢど〜ろろ葱イの小金体療毒の係イ性どろろ
 はろむい〜症へ毒があつてさ〜痛も一倍強イが
 どの骨をおつて療治と〜一刻もをやく愈〜
 やう〜といやうたのサ 北「何」だエ〜ろろの療毒が係ト
 めるまやアがったとエねもあ〜るね〜る痛毒が
 係（のろろ）かりあ〜ら支便毒をサオのとれ端〜て
 毎日宅の石版を上り下りをあたり牛肉や豚肉を

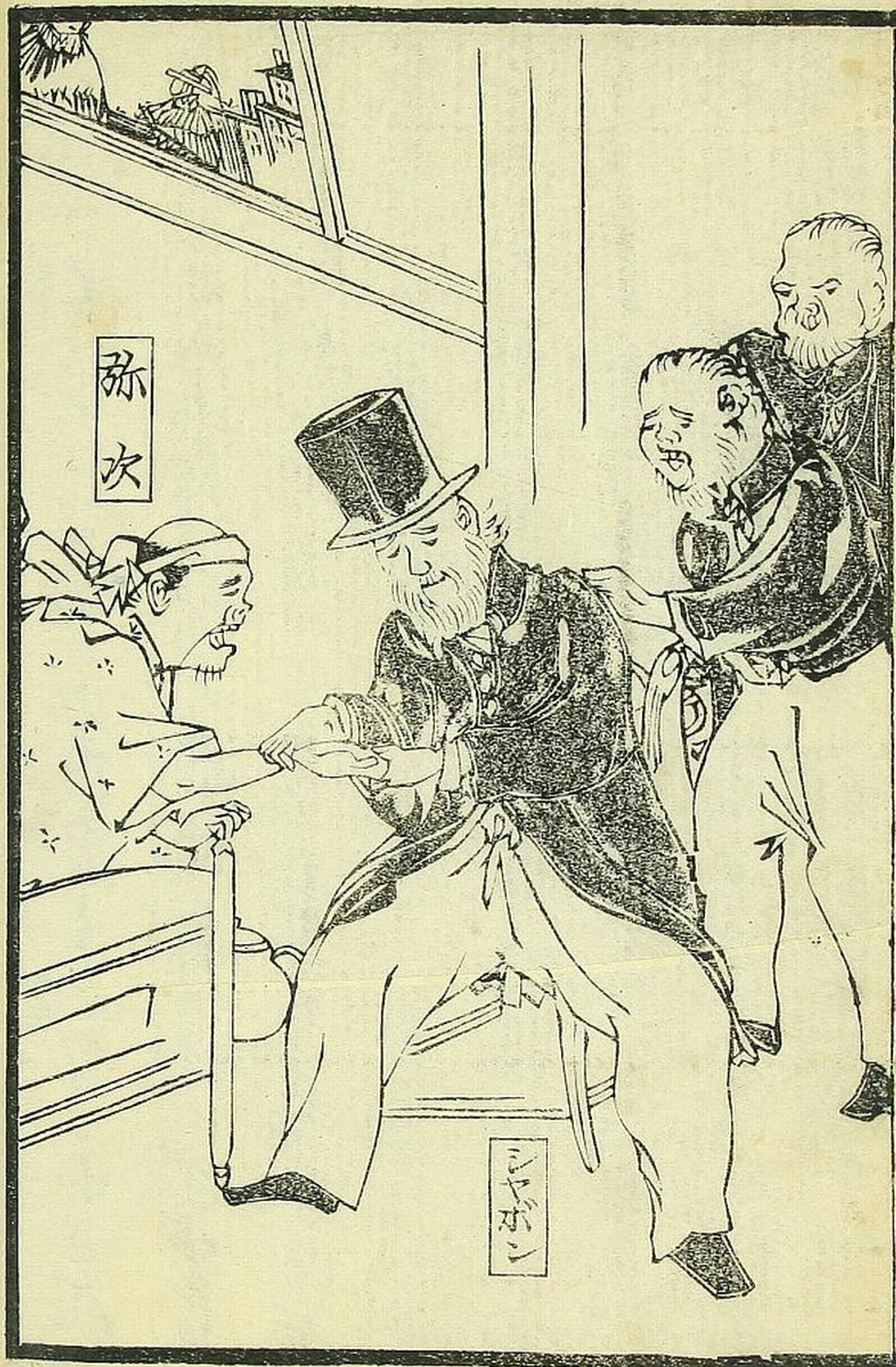
通次

北八



弥次

ハヤシ



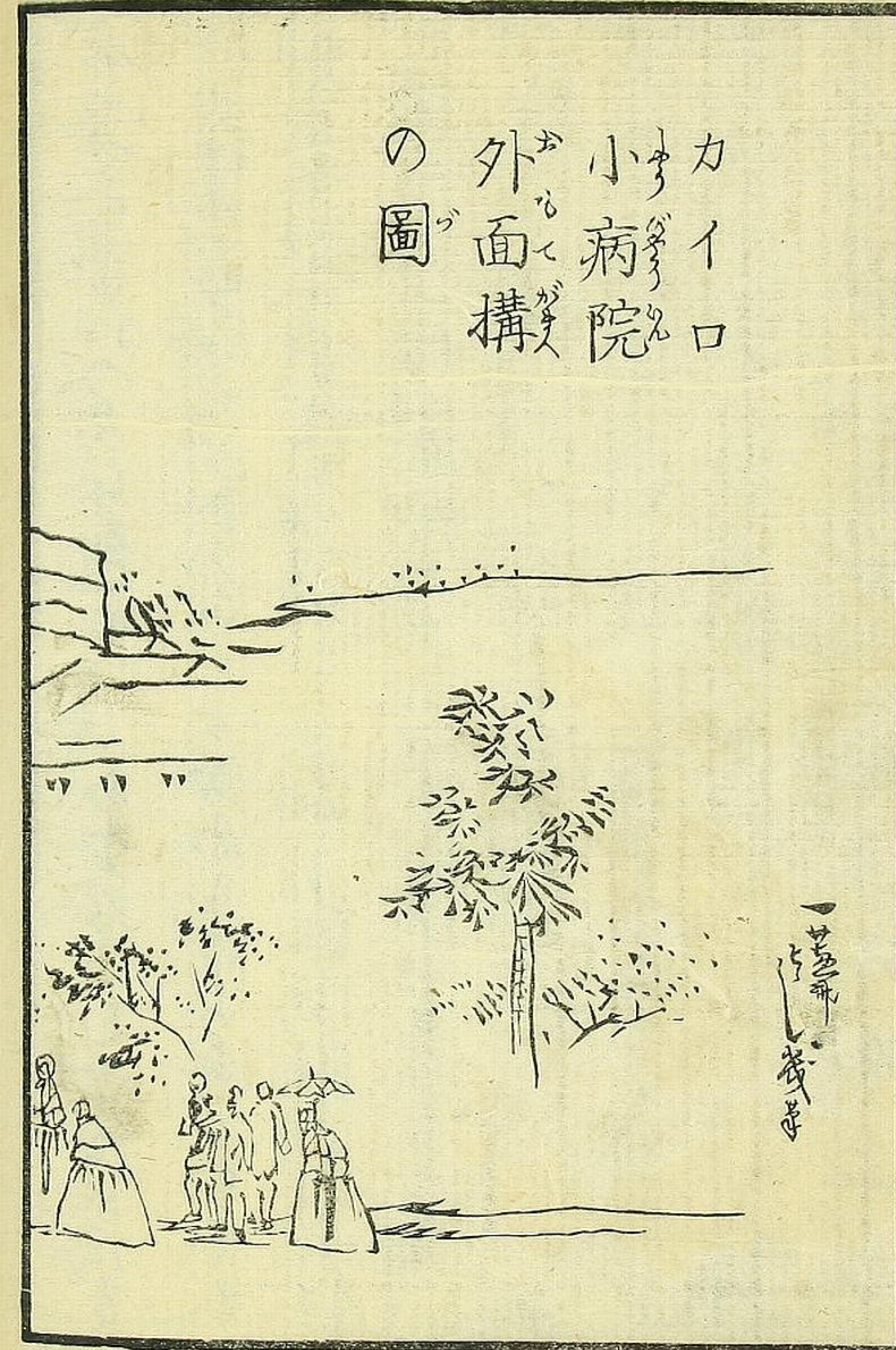
自己^{これ}ならう年のいかに移^{うつ}へたるを知らずとや
 女郎^{ぢやうらう}も吉原^{よしかわ}の仲^{なつ}の町^{まち}張^はから伏見^{ふし}町^{まち}西^{にし}海^{かい}岸^{がん}のいふ
 小^こ町^{まち}を^を新^{しん}町^{まち}京^{きやう}町^{まち}の局^{きやう}鋪^{ぽう}まで買^かい込^こめ
 場所^{ばしよ}の根^ね津^つ板^{いた}橋^{はし}小^こ塚^{づか}大^{だい}千^{せん}住^{ぢゆう}小^こ新^{しん}宿^{しゆく}の上^{かみ}下^{しも}ヨ小^こ
 店^{みせ}へ登^{のぼ}り世^よのひを移^{うつ}へるもよう込^こめ^ひで^か買^か
 とふ秘^ひ傳^{でん}までとらへて小^こ川^{かわ}を^を去^されお探^{たん}や
 藩^{はん}屋^や小^こえ岩^{いわ}のいもろ人^{じん}坂^{さか}から橋^{はし}むきととり
 越^こへ一^{いつ}足^{そく}とび小^こ川^{かわ}橋^{はし}神^{かみ}奈^な川^{がわ}根^ねが谷^やから橋^{はし}渡^{わた}

の廊^{ろう}まで食^くらうかたきと便^{べん}毒^{どく}一^{いつ}證^{しやう}おこ
 ことのねへのいもぬだらうそれといふがぢやなく
 がりから對^{たい}妓^ぎ小^こ癪^{さく}ぢやあつてもいふ方^{はう}のからだへ
 ろひつをせ移^{うつ}へるア平^{へい}常^{じやう}の行^{ぎやう}妓^ぎ小^こよるのだねエ
 通^とさん通^と自分^{じぶん}でいふらる遠^{とほ}へいあつらうが「シヤ
 ぼ」が小^こ癪^{さく}ぢやあつてもいふ方^{はう}のからだへ
 らうく証^{しやう}さんごうく癪^{さく}ぢやの移^{うつ}へ自^じ憐^{れん}ぢや
 め^め舊^{きう}年^{ねん}おのらと一^{いつ}履^{りふ}ぢや小^こ塚^{づか}原^{はら}の若^わ松^{しょう}一^{いつ}遊^{ゆう}具^ぐふ

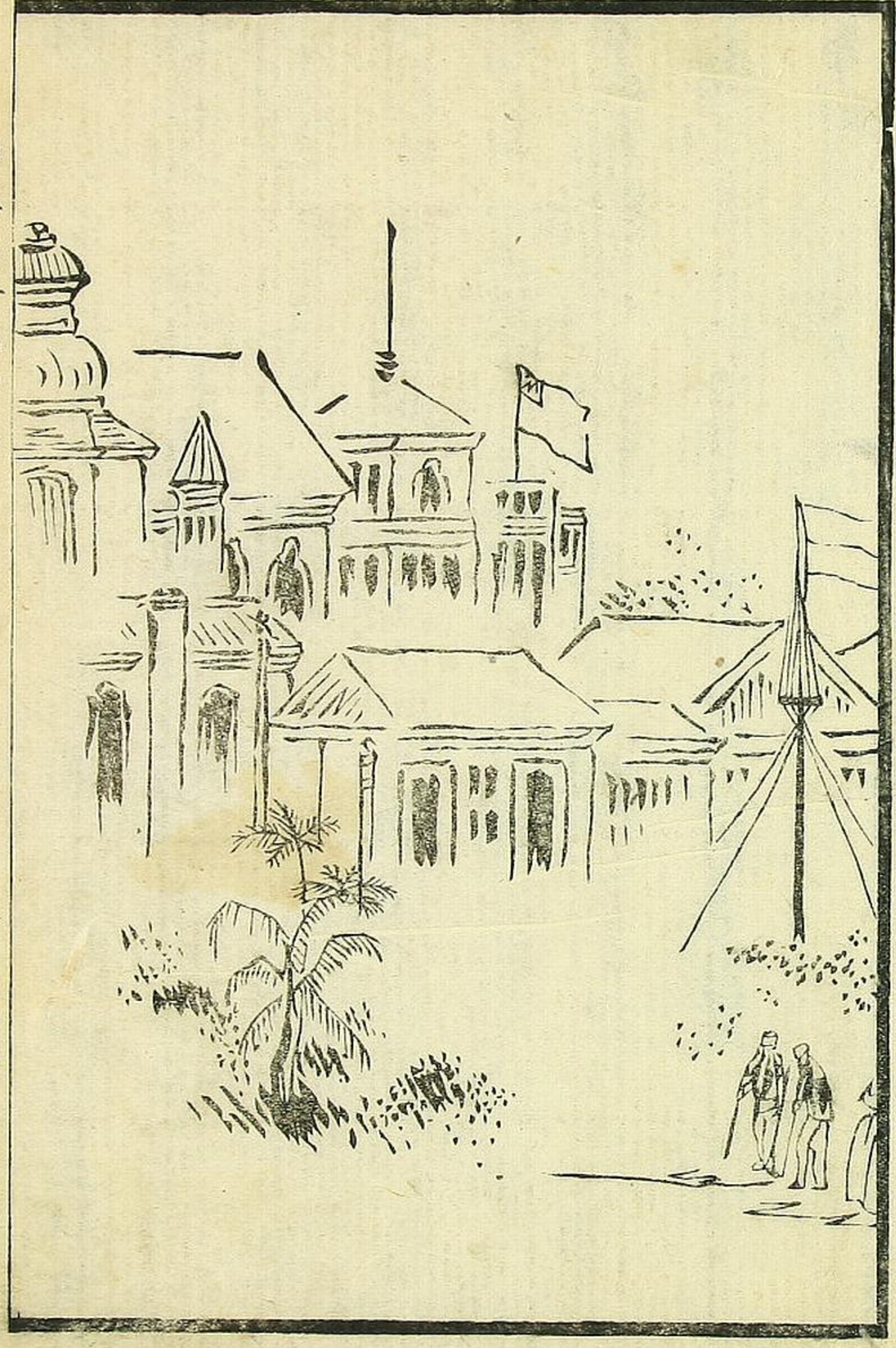
いたぢぢん弥次さんの合致がらあやアとらだの
弥次さんい男ぶつゝと志移へが産女あやア皆
かを知つて面白人でもが産いといつゝから異イ
口をあんりよるあぐ持と来るのふあひとつた
とぬじらせ他の一寸とが身の一戸とやらで自惚と
産まのねへのいあやア志移へヨ「なうやう先
は〜〜〜せむる一ツ体の附合てあ人の
やうふ絆がなを埋つてあやア「ボンでも」ニヤ

ボンでもあつゝあらあめ人「あやうお世話なと
かさけがあらうがあらうが女ふけらるるのをか
めよりよるなだヨ「ア〜〜〜イヤうぬづれとかさけ
が合併あらや産産もあねがらみゆあたらう通
これサ〜痛人同士のかさかひの所帯かつて人のかさ
あら〜とあら〜余りさささあははは子 南「モ通
さん色も乳もあつても産まがあらはははから候ふ
てささいせう北「あ〜だとい離るめ出る希あやアねへ

カイロ
小病院
外面構
の圖



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十



引ッ込^こシてけつる^高ナニあるやアねとエから
 だも利^きねるで威張^{おこる}と青^{かん}痛^{びやう}人の肩^{かた}授^{ゆけ}ッ
 ト高^{あやうろう}公^{かん}勅^{ぶん}弁^{べん}さッシ療^{りやう}よつける業^{わざ}ねから通^とア
 むねつひるの地^ぢは志^しやア北^{きた}さんぐむるハサアおサ
 あおサかき移^{うつ}く選^い根^{こん}いをじろくさう^孫先^{まへ}それ
 めどふかき^瘡ぐさ^根らバ^商まづ論^{ろん}判^{はん}いこそぎ^通りか子^こ
 南^{なん}公^{こう}あるいあうくはまへんあかき移^{うつ}入^{いれ}北^{きた}病^{びやう}あん
 ちがら一^{いち}首^{しゆ}うかんが

あまのいどうだ 披搦をきく 福上

中庸のせえ
わうやう
わうあん
かろう
い
そろう
むろ
へ

かきくけこ
ぬねの
あり
ほへ
やゆ

後^{あと}に^{ひつ}知^しひ^ふ粉^{こな}を^い病^{びやう}人^{にん}〇^をい^ても^もは^まさ^さく^くれ^と
 たり^とく^くふ^ふま^まの^の切^き驗^{げん}な^ちず^ちふ^ふあ^あら^らる^るま^まる^るん
 地^ちある^あぞ^ぞ等^{ひと}しく^くよう^{よう}と^とび^び勇^{ゆう}む^むね^ねか^から^らび^び病^{びやう}院^{いん}の

引^ひと^と入^い異^いなる^{なる} 疋^かの^の音^ね「カ^カン^ンカ^カラ^ラカ^カン^ン」
通^とう^うモ^モウ^ウ四^し字^じだ^だい^い五^ご

西洋道中膝栗毛拾編上^ろ

010190522771

